

⑧ **販売所直産物の運営のヒント**

品ぞろえを多彩にしよう

気になるのは、トマトなら桃太郎が大量に売り場に偏って並ぶというようなケース。特に比較的生産地が豊かなところほど偏った傾向があるようだ。この結果、価格も安く売られてしまうということになる。逆に特産の果実が出るところでは、ある時期だけ売り上げが急増するが、ほかの月は激減するというところもある。購入者からすると選択肢が狭まってしまう。逆に直売所巡りをする購入者もいるように、特定の比較的安いもの、そこだけしかないものを、狙ってチョイスして買っていくというものだ。

ジャガイモ一つとっても70種類以上ある。キャベツでも月ごとに栽培ができるように品種がいろいろとある。トマトにいたっては、ミニトマトから、黄色、緑色など、色から大小までさまざまだ。熱心なところは、こまめに情報交換をする、売れ筋をリサーチする、レストランでのニーズを調査する。売り場の担当者が、どんなものが売れるのか、生産者に情報

通年で安定した販売できる体制構築を

を流すとともに、栽培をしてほしいものを指導することもしている。同時に種苗会社のアドバイザーを受けて、品種から栽培方法、特徴などの研修会を開いている。同時期に同じ作物が偏らないように種を変え、時期をずらして栽培をするなど工夫をし、単価も安定させ、通年で安定的にコンスタントに販売をする体制をとっている。

例えば、トマトは大量に出回る桃太郎を避けて、ほかの品種、それも何種類かを栽培してバラエティーに富ませ、同時に併設のレストランで、サラダの彩りを豊かにするなど、多彩なレシピを提供して消費者を楽しませているところもある。結果、誘客にもつながっている。

ジャガイモの多いところでは20種類くらいを出している。それぞれに煮物、マッシュ、揚げ物に向くなど、特徴を掲示して販売をする。

多彩な野菜、果実、根菜、それに肉類、乾物などがそろっていると、周辺の利用を高めることができるばかりか、レストランをはじめとする飲食店の購入も格段に上がる。

◇次回は1月18日付



2018年(平成30年)

12月14日 金曜日
月4回金曜日発行

農地を活かし 担い手を応援する
農業委員会ネットワーク機構

発行所 **全国農業会議所**

〒102-0084 東京都千代田区二番町9の8
中央労働基準協会ビル ☎03-6910-1130
©全国農業会議所2018

ホームページ <https://www.nca.or.jp/shinbun>

お申し込みは、お近くの農業委員会へどうぞ